

2020年度 第1回 ライフステージ事例検討会 報告書	
日時	2020年7月7日(火) 17時45分～18時45分
開催施設 参加者数	金沢大学42名、福井大学11名、石川県立看護大学9名、信州大学8名、恵寿総合病院2名、石川県済生会金沢病院0名、石川県立中央病院5名、金沢市立病院0名、小松市民病院11名、浅ノ川総合病院0名、富山県立中央病院0名、高岡市民病院0名、市立砺波総合病院8名、富山県済生会富山病院2名、金沢医科大学氷見市民病院9名、厚生連高岡病院0名、富山労災病院0名、飯田市立病院2名、諏訪赤十字病院8名、長野赤十字病院0名 <u>会場参加 計 117名</u> その他 個別のオンライン参加 計 46名 合計163名
テーマ	終末期がん患者の「したい」を家族と「叶える」を支える看護
発表者	金沢大学附属病院 佐伯 千尋さん
<p>【意見交換内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意識レベルに変動のある終末期患者の外出について、他施設での経験・取り組みを意見交換された。 1. 今回の事例がうまくいったポイントは？準備期間はどれくらいか？担当看護師と専門看護師の役割分担はあったか？ ・受け持ち看護師以外のスタッフや医師も協力的であり、受け持ちが休みのときでも他のスタッフが情報をとってくれたり積極的に動いていた ・息子さんが自宅の物の配置や家の様子を携帯動画で撮影してきて、具体的な家での生活を予測立てることができた。 ・MSWがすぐに動き、外出準備は3日で行えた。 ・看護師は患者の家族を覚えようと名前を呼んだり、積極的なコミュニケーションを図っていた。 2. 外出に関し障壁となったものは？外出時の実際の状況は？ ・全身状態は不安定であり、疼痛コントロールを図り、酸素投与、ストレッチャーでの移動を行った。 ・外出時は、キーパーソンの息子さんがいるときで、障壁となる実の両親は不在のときに外出を実施した。 ・外出中は、万が一に備え、すぐに病院に戻れるように介護タクシーは自宅待機したままであった。 3. 外出後の経過は？ ・2時間程度の外出であったが、患者、息子さん達も有意義な時間を過ごせた。 ・外出から5日後に永眠され、亡くなったあとに息子さん達への手紙はなかったものの、息子さん達からはそれ以上のメッセージを直接受け取ることができたと話された。 4. 担当看護師やスタッフのメンタルフォローはどのようにしたか？ ・スタッフ間でも担当看護師の燃え尽きが心配されていたが、皆で協力して関わることが助けだったと後のカンファレンスで言っていた。 <p>【他施設からの意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・せん妄の患者が外泊されたとき、案外自宅で過ごす方がせん妄症状が安定していた事例があった。 	
ミニレクチャー	終末期がん患者と家族の意向を支える